

I N F R A S T R U C T U R E + L I F E + I N N O V A T I O N

2026年6月期 第3四半期
決算説明資料

GRID+

株式会社グリッド(証券コード5582)

2026年5月15日

サマリー

売上高 1,951百万円（前年同期比+435百万円、+28.7%）

■ 前期から続く大型案件や新電力案件も堅調に推移し、前年同期から28%成長

- 電力は、電力会社や送配電会社の各プロジェクトが堅調に進展し、1,041百万円と132百万円増加（+14.5%）
- 製造・運輸は、前期に複数の配船計画のシステム導入が完了した影響で 340百万円と119百万円減少（△26.1%）
- 都市・交通は、鉄道の配車、修繕、構内作業等の計画案件が進展し、351百万円と218百万円増加（+164.1%）
- エネルギーマネジメントは、電力系統接続の申請支援 8 件発生により160百万円（前期はなし）

営業利益 310百万円（前年同期比+10百万円、+3.5%）

■ 人員拡充やオフィス移転費を賄う着実な増収により前年同期比で営業利益増加

- 3Q末の人員は133名（AIエンジニア86名、蓄電所関連エンジニア 3 名、営業・管理44名）となり、採用費を含めた人件費は194百万円増加。そのほかオフィス移転による賃貸料等の増加もあり、営業費用は合計425百万円増加するも、売上高の堅調な推移により営業利益は増加。

計画進捗と今後の見通し 3Q売上高：計画比+0.3% 3Q営業利益：計画比+57.5%

■ 電力・鉄道は堅調に推移、蓄電所の開発がスタートし通期業績予想は達成見込み

- AI事業においては電力、製造・運輸、都市・交通の各分野とも堅調に推移し、予算通りに着地見込み。エネルギーマネジメント分野の蓄電所開発が4Qに開始され売上が計上される見通し。
- 採用活動は堅調に推移し、当初計画の期末従業員数の見通しを達成。売上に対する人件費比率も水準通りに推移し、採用費含めた人件費やオフィス移転による賃貸料が年度末に向けて増加傾向となるが、営業利益は当初計画通りの着地見込み。

■ 26/6期3Q決算概況

- 近況報告
- マクロ環境
- 成長戦略
- 事業等説明

前年同期比較

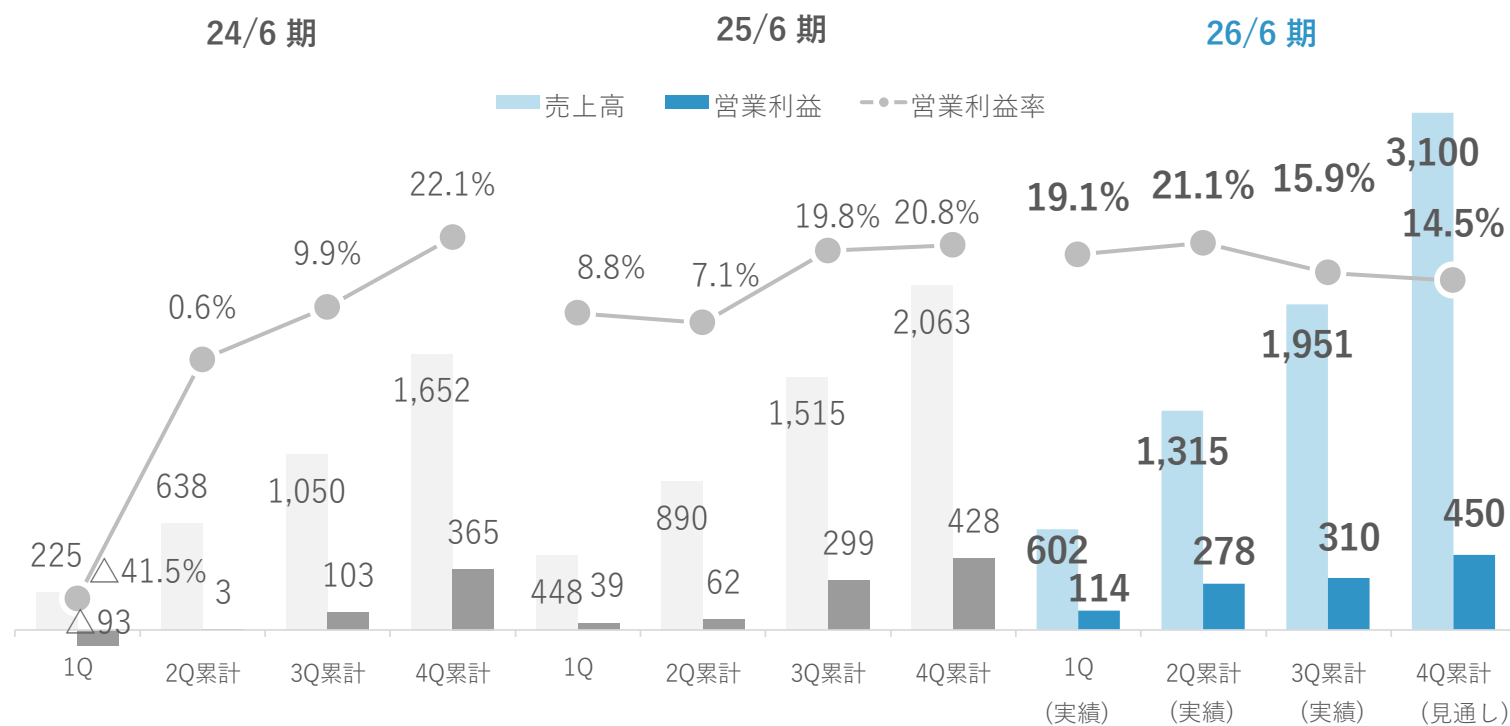
売上高は大型案件の進捗により前年同期比で28.7%成長。
人員増等により費用が増加するも**全ての段階利益が前期比で増加。**

(百万円)	26/6期3Q (売上高比)	25/6期3Q (売上高比)	前期比	期初計画 (売上高比)	計画比
売上高	1,951	1,515	+28.7%	1,945	+0.3%
営業利益	310 (15.9%)	299 (19.8%)	+3.5%	197 (10.1%)	+57.5%
経常利益	317 (16.2%)	301 (19.9%)	+5.1%	—	—
当期純利益	207 (10.7%)	194 (12.8%)	+7.2%	—	—

四半期累計見通し

AI事業は堅調に推移し、蓄電所の開発が開始され
当初計画通り **4Q**で**収益貢献**。通期の**業績目標**は**達成**する見通し。

● 売上高と営業利益の推移



四半期会計見通し

AI事業の売上は四半期偏重が解消され底堅く推移。
 Q4より蓄電所開発が複数案件開始される見通し。

26/6期見通し

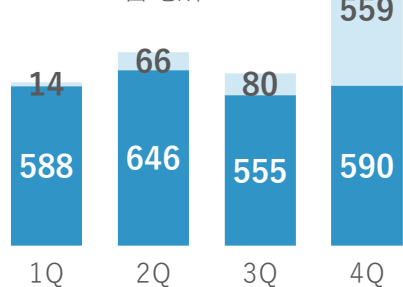
(百万円)	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	602	712	635	1,148
AI関連	588	646	555	590
蓄電所関連	14	66	80	559
営業利益 (売上高比)	114 (19.1%)	163 (22.9%)	32 (5.1%)	141 (12.3%)

26/6期計画

(百万円)	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	566	706	671	1,154
AI関連	566	636	595	571
蓄電所関連	-	70	76	582
営業利益 (売上高比)	57 (10.2%)	93 (13.2%)	45 (6.8%)	252 (21.9%)

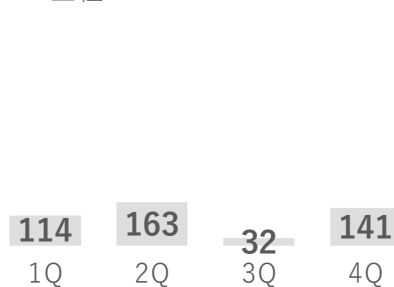
売上

■ AI ■ 蓄電所



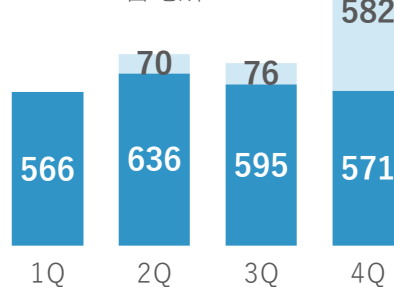
営業利益

■ 全社



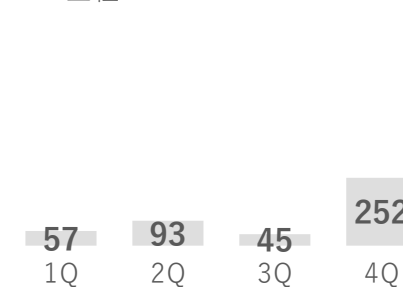
売上

■ AI ■ 蓄電所



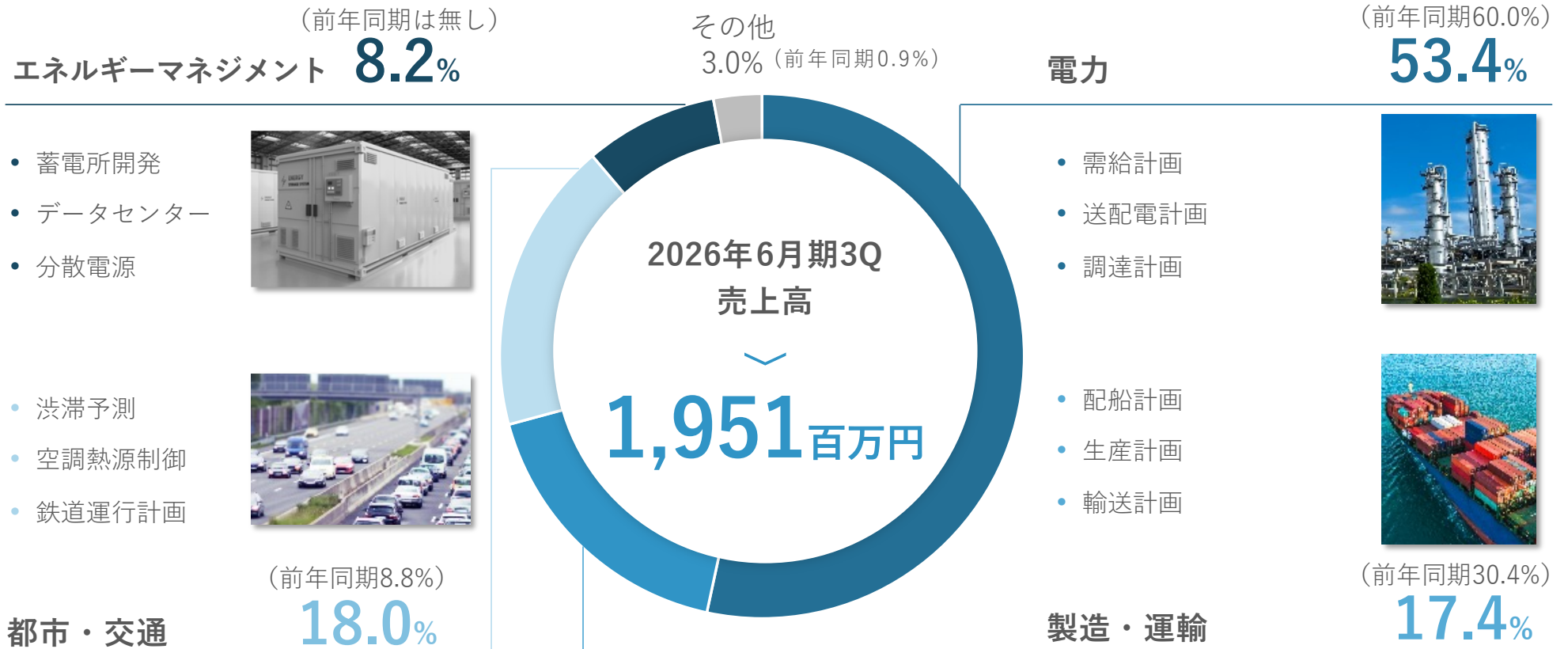
営業利益

■ 全社



ドメイン別の売上構成

都市・交通分野の大型案件が一巡し構成比が落ち着く一方、製造・運輸分野が着実に伸長。主力の電力分野は堅調に推移し、事業全体を牽引。



AIのフロー型売上とストック型売上

フロー型売上の増加は電力・鉄道大型案件を中心に堅調に推移。
プロジェクト数が着実に伸長しストック型売上も増加。

フロー型売上

ストック型売上

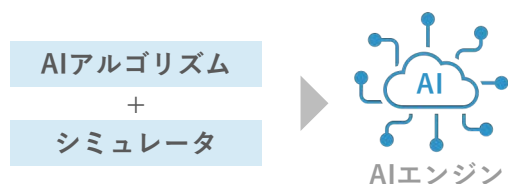
AI開発

システム開発

運用・サポート

具体的な
サービス

AI技術によるAIアルゴリズムと
シミュレータを組み合わせたもの
をAIエンジンとして開発



AIエンジンを搭載した業務アプリ
ケーションを顧客の業務システム
に組み込む



顧客がシステムを継続利用するた
めの機能（性能維持・監視・障害
対応）を年間契約で提供



売上高※

合計
25/6期3Q 1,142 百万円
26/6期3Q 1,290 百万円
+147百万円

顧客平均
34.6百万円
47.7百万円
(+13.1百万円)

合計
25/6期3Q 373 百万円
26/6期3Q 500 百万円
+127百万円

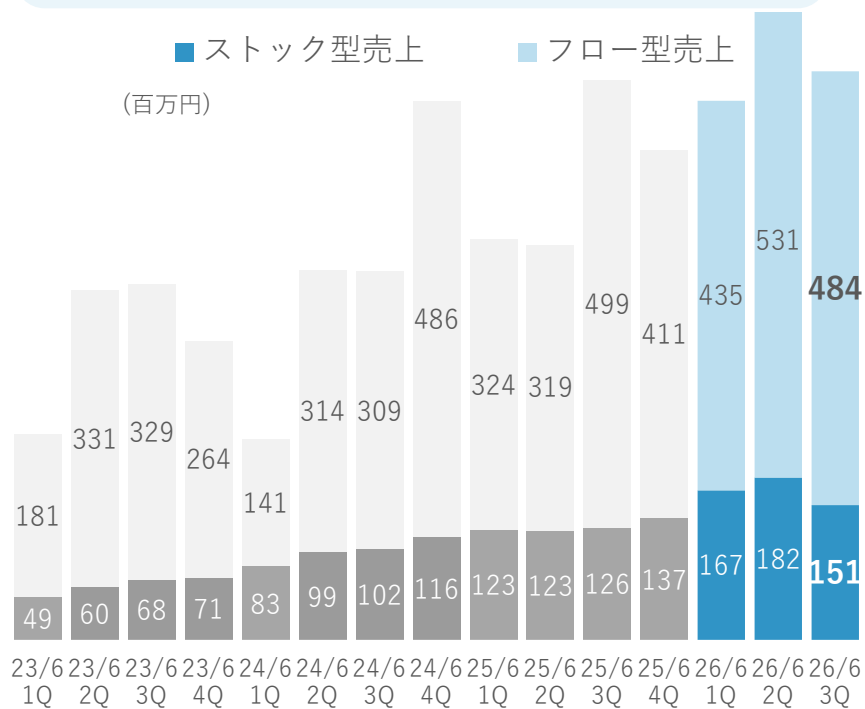
顧客平均
26.6 百万円
29.4 百万円
(+2.7百万円)

※ 蓄電所関連の売上を除く

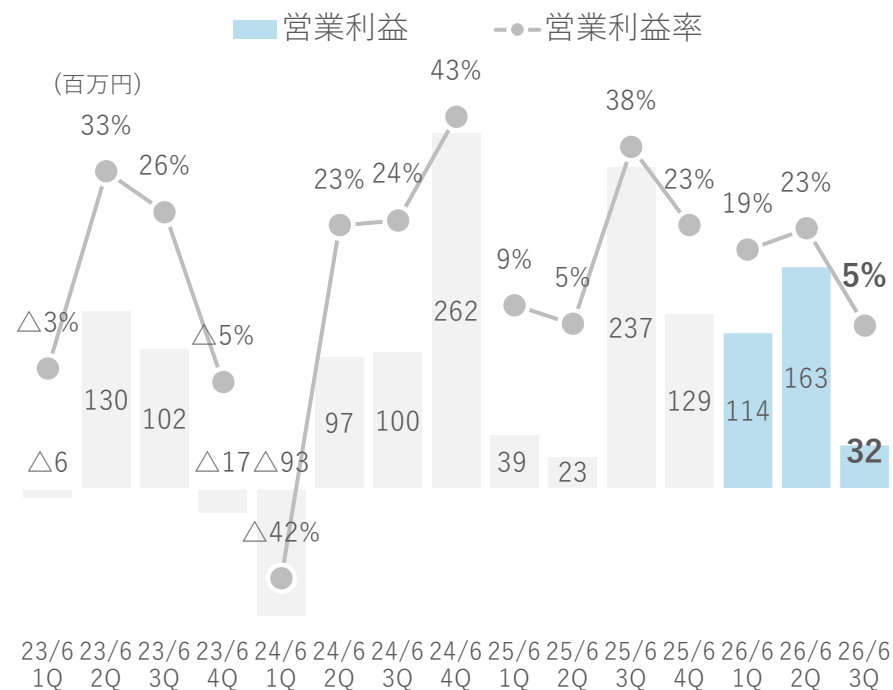
四半期業績推移

一部予測系システムの運用保守が終了するも、
計画系システムの運用サポートは堅調に推移。

● 四半期ごとの売上高

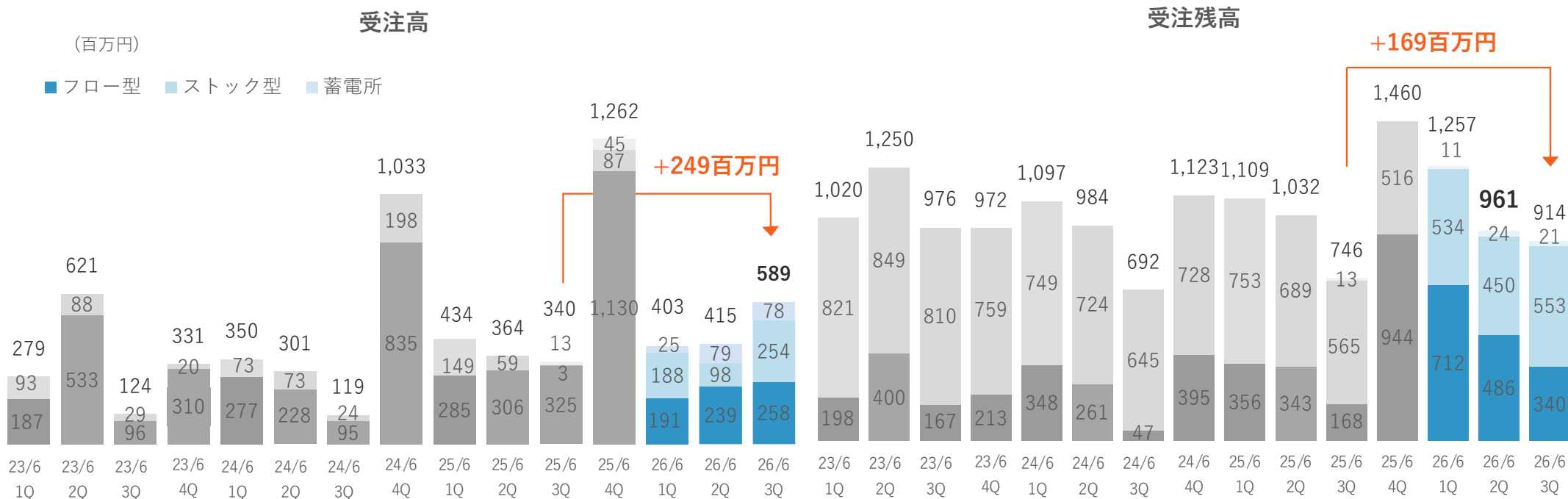


● 四半期ごとの営業利益と利益率



受注高と受注残高の推移

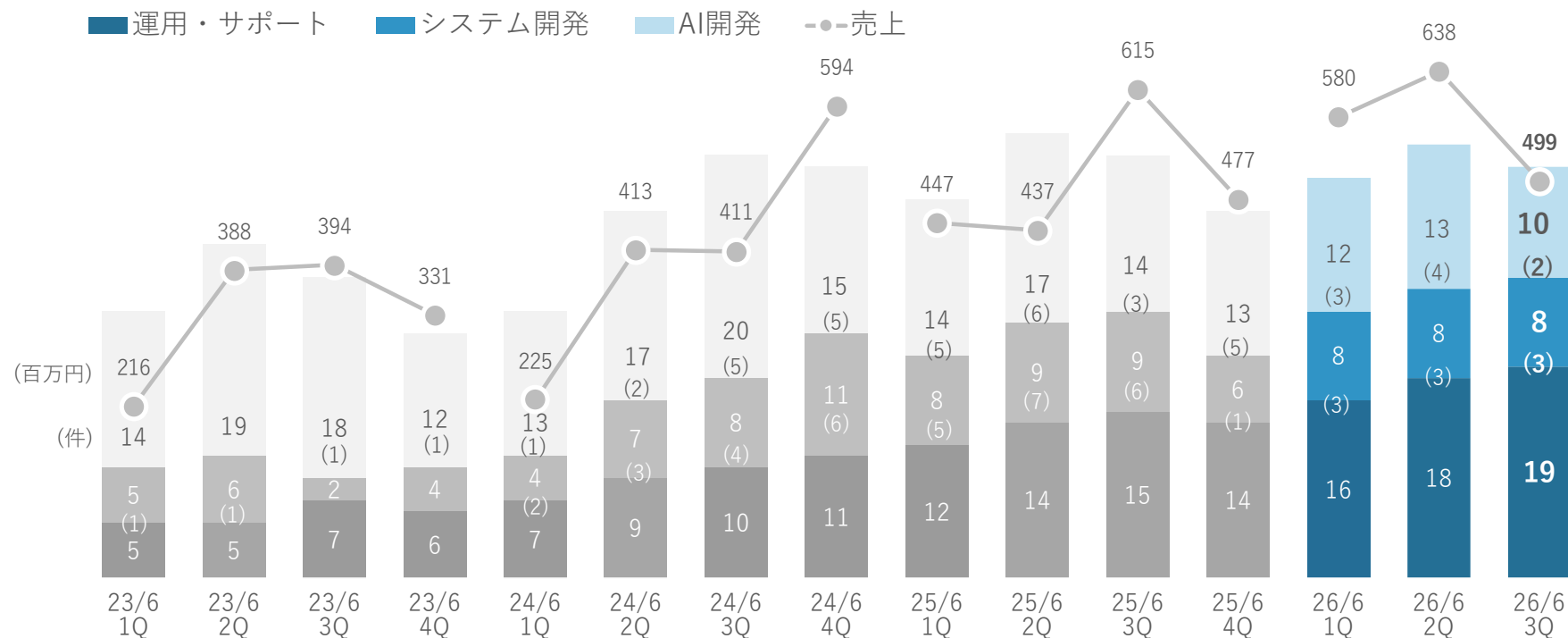
フロー型が例年通り堅調に推移する中、契約更新等によるストック型の積み上げが寄与し、**受注高・受注残高ともに前年同期比で増加。**



四半期ごとのAIプロジェクト数

第3四半期に完了した開発プロジェクトは10件。
 順調に運用サポートに移行。
 期末開発プロジェクト数は増加の見通し。

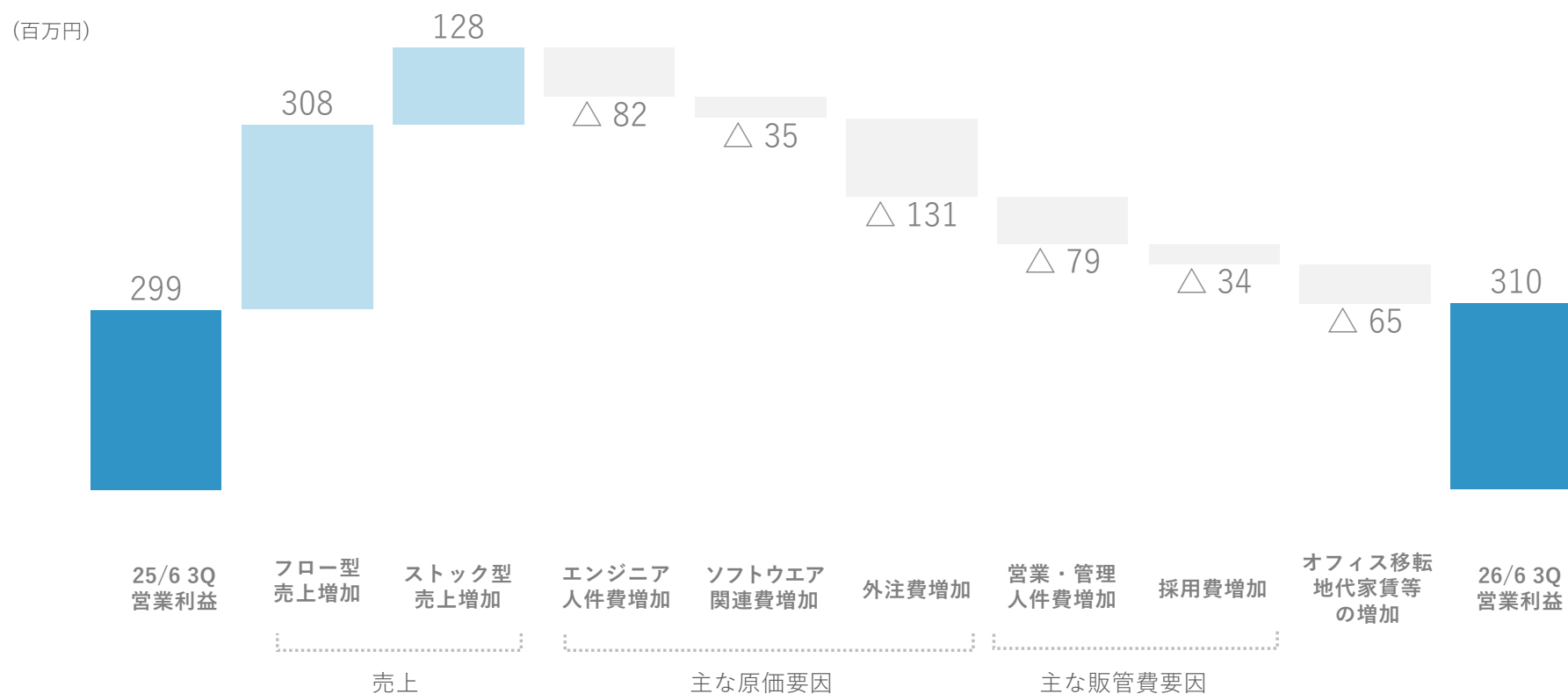
● 四半期ごとのサービス別のAIプロジェクト数と売上



※ 括弧書きは、運用・サポートを開始した顧客に対するアップセル・クロスセルの件数

営業利益増減要因

人員体制の強化に伴う人件費・採用費等が要因となり営業費用が増加。
概ね売上高は計画通りに進捗。営業利益は前年同期から微増。

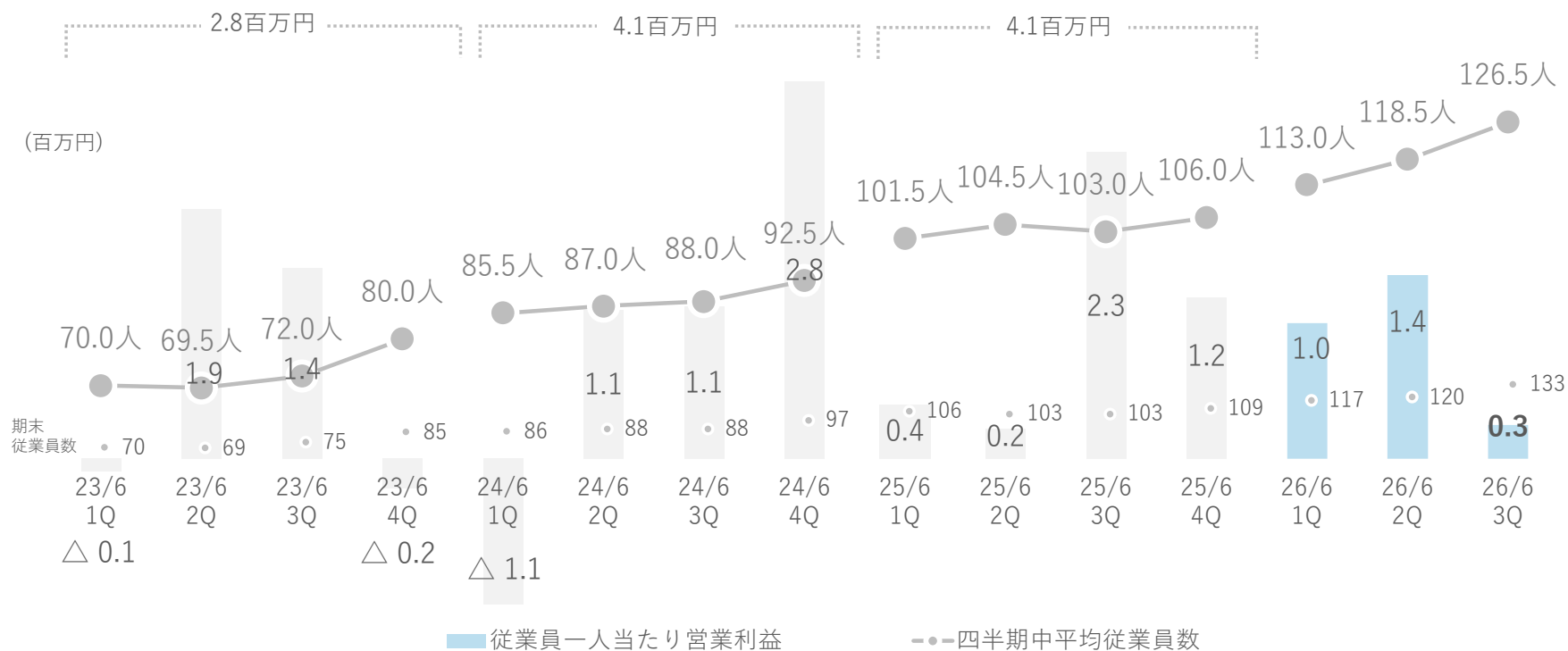


従業員一人当たり営業利益

前期末比で全社従業員は22人増（+20.2%）。
 通期の従業員一人当たりの営業利益は計画通りの着地見込み。

● 四半期ごとの従業員一人当たり営業利益※と従業員数

※ 四半期営業利益 ÷ 四半期期首期末平均従業員数

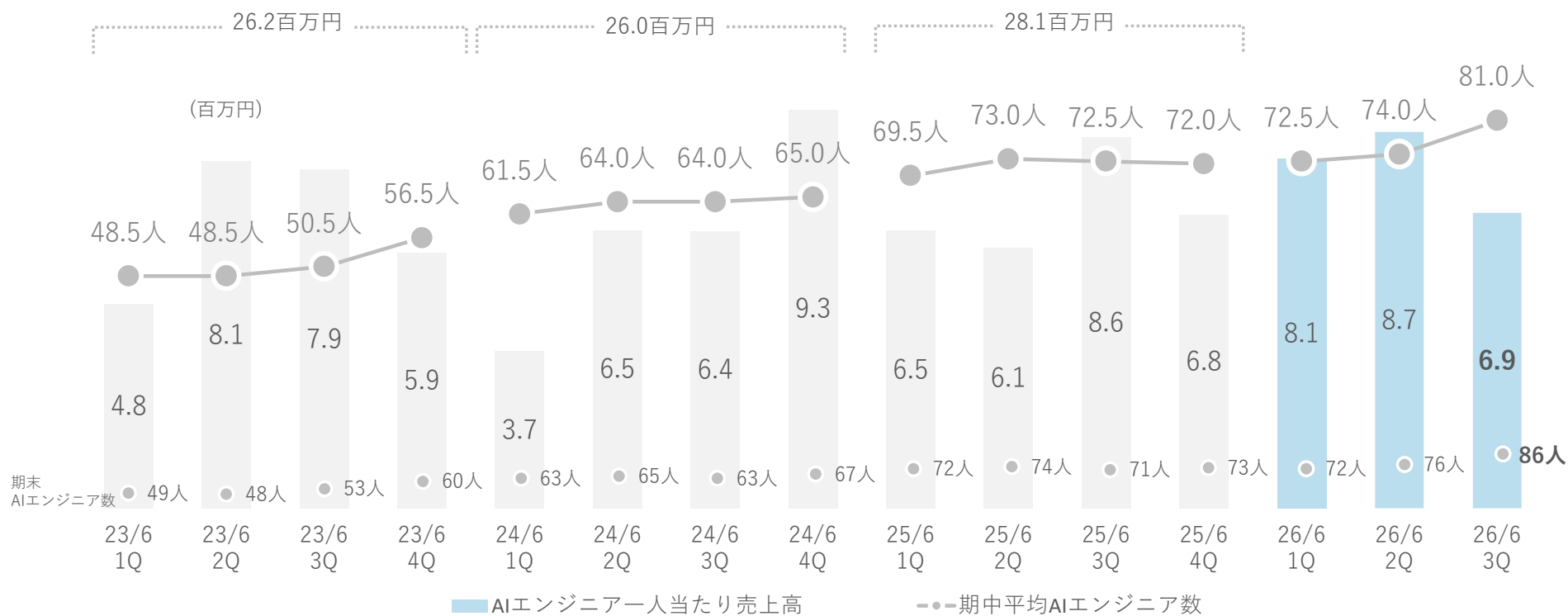


エンジニア一人当たり売上高

積極採用でエンジニア数が増加する中、売上も底堅く推移し、
エンジニア一人当たりの売上高が維持され生産性も低下せず。

● 四半期ごとのAIエンジニア一人当たり売上高*とAIエンジニア数

* 四半期売上高 ÷ 四半期期首期末平均AIエンジニア数



主要な経営指標

顧客基盤の拡大により取引先数^{※1}を増やしつつ
案件の大型化により顧客平均売上^{※2}も増加

	26/6期3Q累計	25/6期3Q累計	前期比
売上高成長率	28.7%	44.3%	△15.6pt
営業利益率	15.9%	19.8%	△3.9pt
ストック型売上比率	25.7%	24.6%	+1.1pt
顧客平均売上 ^{※2}	47.5百万円	43.3百万円	+4.2百万円
主なサービス区分 ^{※3}	54.6百万円	48.3百万円	+6.2百万円
取引先数 ^{※1}	41社	35社	+6社
主なサービス区分 ^{※3}	32社	31社	+1社

※1 売上計上の対象となったエンドユーザ数 ※2 売上÷通期取引先数
※3 その他を除く、AI開発、システム開発、運用・サポートの3区分

貸借対照表

利益の堅調な増加により自己資本比率は90%に上昇
M&A含む事業拡大に合わせて最適な資本構成を目指す

(百万円)	26/6期3Q	25/6期末	前期比
資産	4,608	4,417	+4.3%
流動資産	4,161	4,162	△0.0%
現金及び預金	2,797	3,197	△12.5%
固定資産	446	254	+75.4%
負債	455	477	△4.5%
流動負債	455	477	△4.5%
固定負債	-	-	-
純資産	4,152	3,940	+5.4%
自己資本比率	90.1%	89.2%	+0.9pt

- 26/6期3Q決算概況

- **近況報告**

- マクロ環境

- 成長戦略

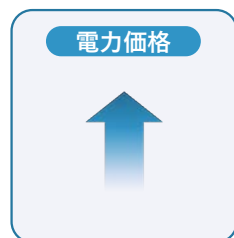
- 事業等説明

揚水・揚発計画最適化システム本開発開始

関西電力向けの揚水・揚発計画最適化システムの**本開発開始** AI最適化プラットフォーム「ReNom Power」を活用したシステム構築

揚水・揚発計画最適化システム

ReNom POWER



- ✓ 充電した分だけ放電
- ✓ 運用と入札の整合性向上

課題：需給の偏り、市場価格の変動増大

安価な時間帯の電力を活用した水の汲み上げと、高価な時間帯の発電の実施。揚水発電による「低価格時の受電」と「高価格時の発電」のサイクルを通じた、電力市場の安定化への寄与。

課題：運用計画と入札の不整合

揚水と発電の稼働を最適化した運用計画の策定。あわせて「充電した分だけ放電」する一貫した入札の実施による、現場の運用と市場入札における整合性の向上。

課題：エリア内の再生可能エネルギーの有効利用の不足

変動性再生可能エネルギーの出力が高まる時間帯における揚水と、需要が高い時間帯における発電の実施。発電のタイミングを需要に合わせて調整することによる、エリア全体における再生可能エネルギーの有効利用の促進。

需給計画最適化システム共同開発・本格運用開始

AIを活用した需給計画最適化システムを 九州電力と共同開発・本格運用を開始



～更なる発電燃料費の削減及び業務の効率化・高度化を実現～

- 26/6期3Q決算概況
- 近況報告
- **マクロ環境**
- 成長戦略
- 事業等説明

今後の電力需要

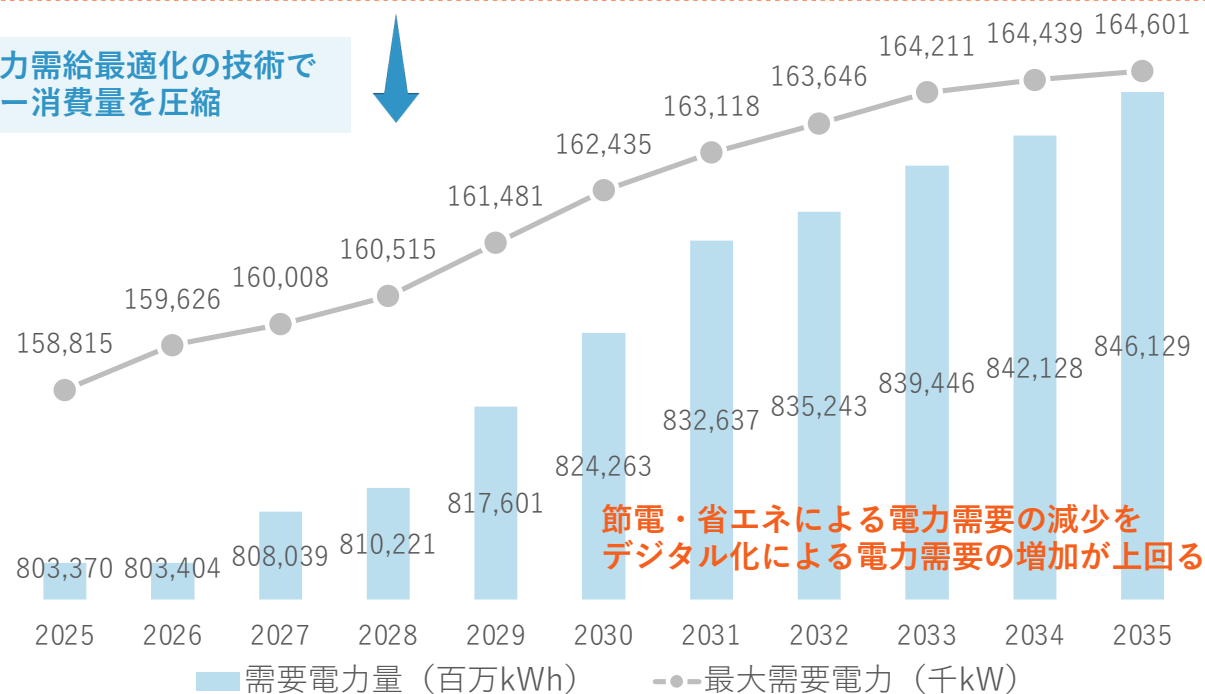
社会全体のデジタル化の加速に伴うデータセンターの拡張や半導体工場の新設が続き、構造的な電力需要の増大が見込まれる

2035年までに**需要電力量は500億kWh超増加**

2035年度までの最大需要電力と需要電力量(使用端)

産業競争力の強化や経済成長のため安定的かつ効率的な電力の供給体制が求められている

当社の電力需給最適化の技術でエネルギー消費量を圧縮



節電・省エネによる電力需要の減少をデジタル化による電力需要の増加が上回る

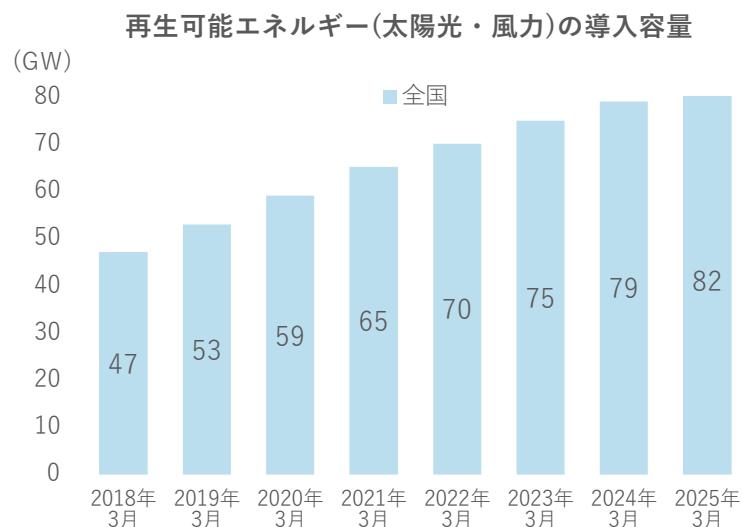
電力広域的運営推進機関「全国及び供給区域ごとの需要想定(2026年度)」より当社作成

© 2026 GRID Inc.

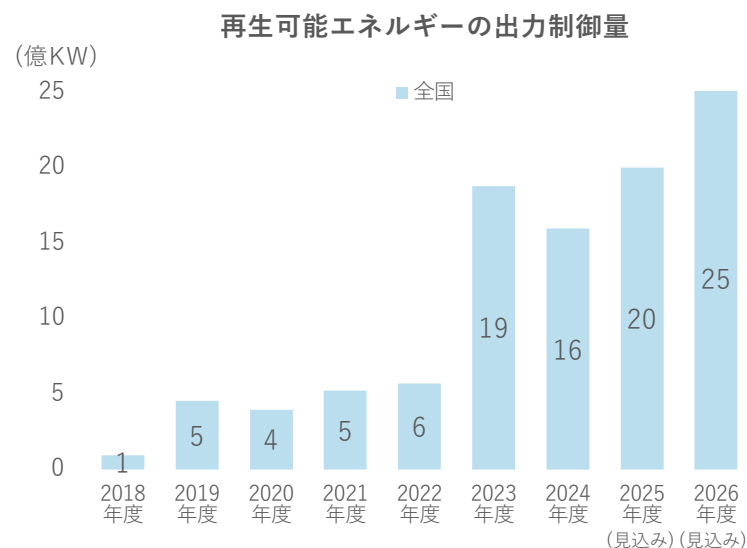
今後の再生エネルギー

再生可能エネルギーの導入量だけでなく、出力制御量も増加
2040年度には電源構成の4～5割が再生可能エネルギーの見通し※
経済的で安定的なエネルギー需給体制に向けて蓄電池は必須

※資源エネルギー庁「今後の再生可能エネルギー政策について」2025年6月3日公表



資源エネルギー庁「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法情報公表用ウェブサイト」より当社作成

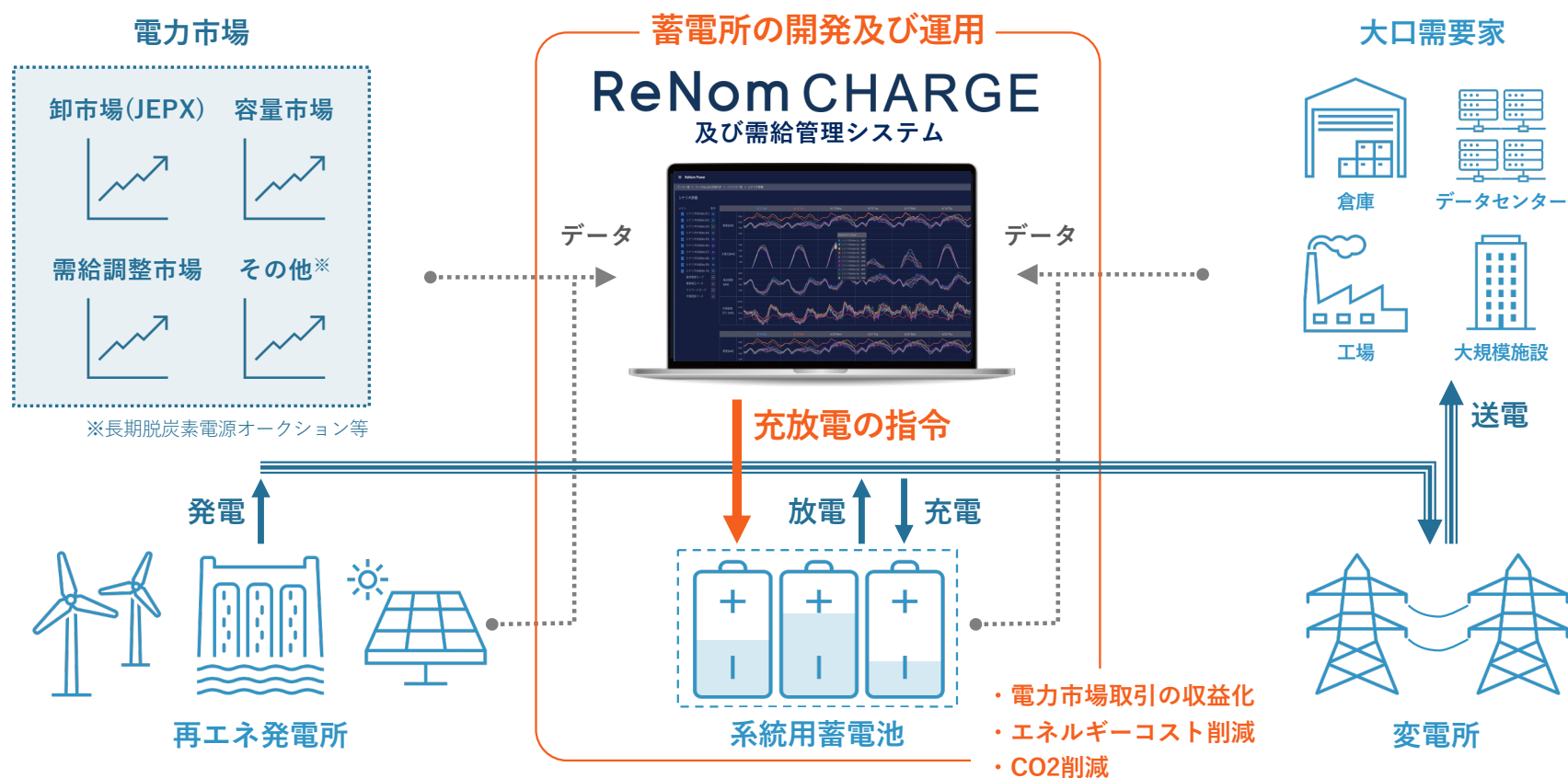


資源エネルギー庁「再生可能エネルギーの出力制御に関する長期見通し等について」2025年6月27日公表、「再生可能エネルギーの出力制御に関する短期見通し等について」2025年1月23日公表、「再生可能エネルギー出力制御の短期見通し等について」2025年12月24日公表、より当社作成

今後も増加してく再生可能エネルギーに対して、出力を制御する代わりに蓄電池に充電し
再生可能エネルギーの有効活用を促進して、経済的かつ安定的なエネルギーの需給体制を構築

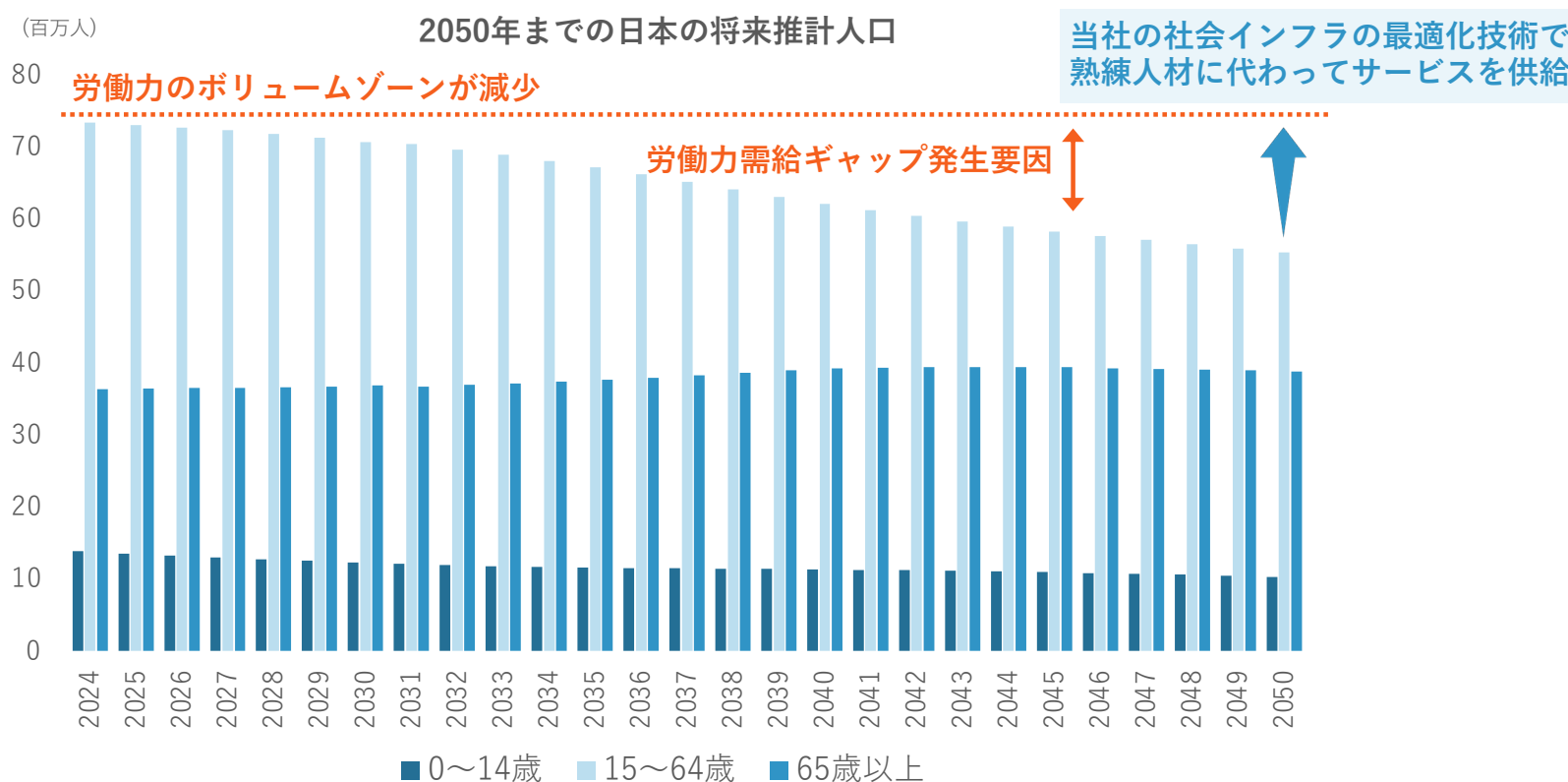
当社の最適化技術の活用

系統用蓄電池の充放電の最適化を実現する技術とともに蓄電所の開発から運用までのワンストップサービスを提供



今後の労働人口

65歳以上の高齢者人口が微増である一方
15～64歳の生産年齢人口は2040年までに**1,100万人以上減少**

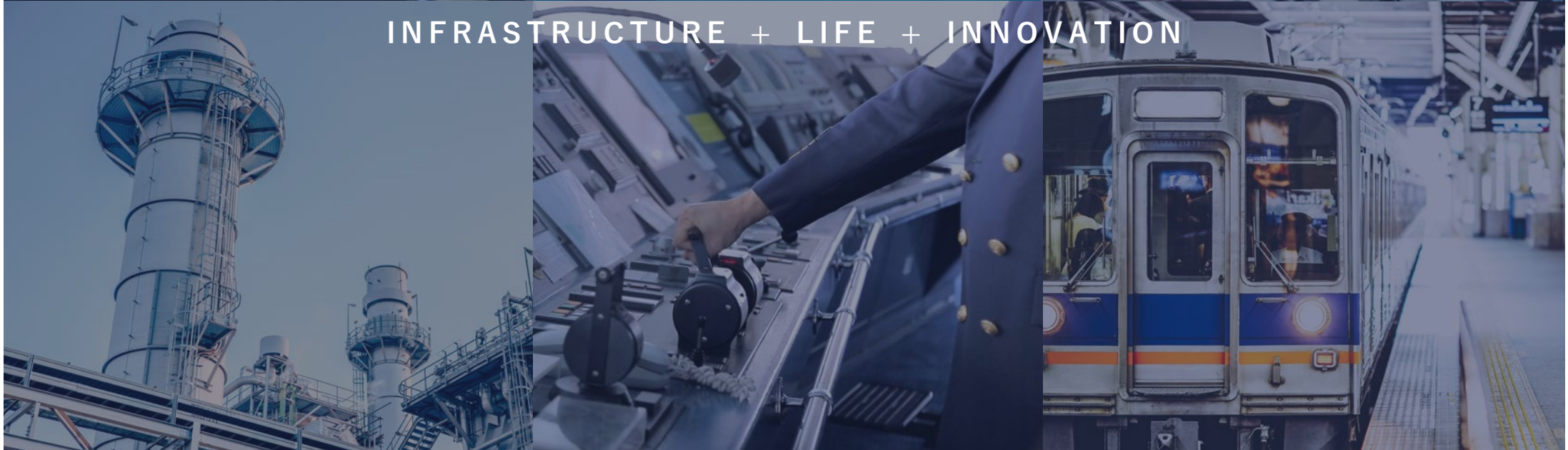


国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」より当社作成



安定供給を支える人たちを支えるイノベーション

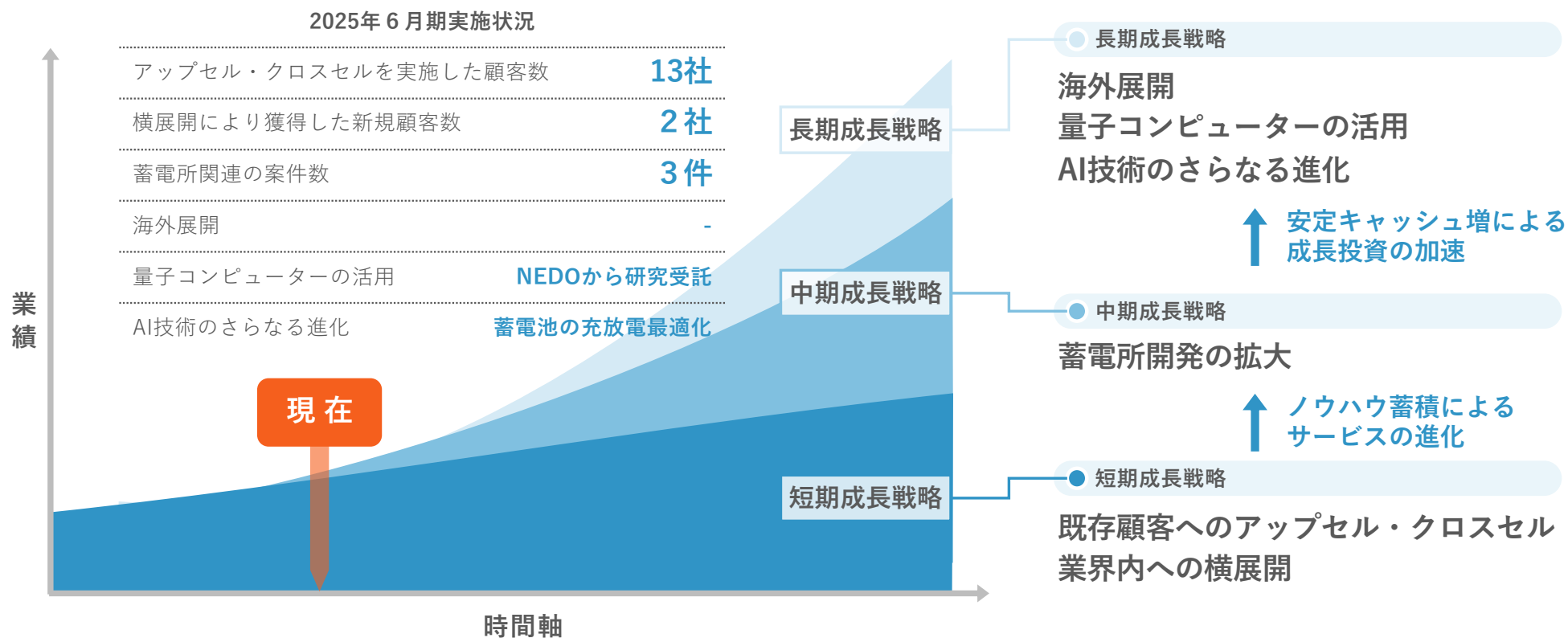
INFRASTRUCTURE + LIFE + INNOVATION



- 26/6期3Q決算概況
- 近況報告
- マクロ環境
- **成長戦略**
- 事業等説明

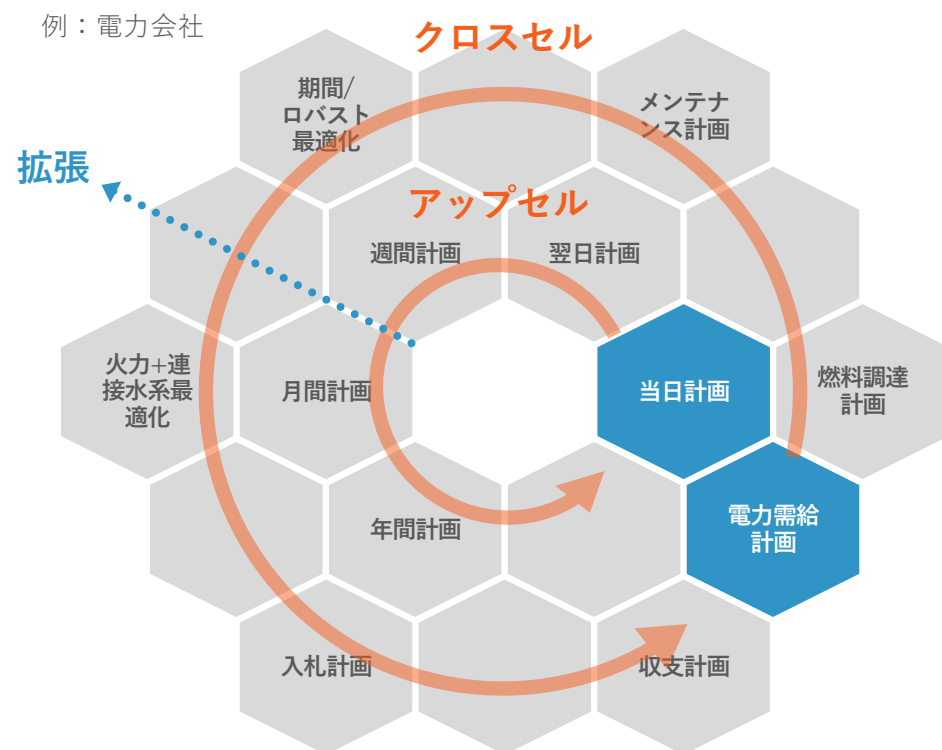
成長イメージ

上場による調達資金を開発体制等の強化へ投資 サービスの進化で、事業拡大の加速と持続的な成長を目指す



短期成長戦略：アップセル・クロスセル

企業内の多種多様な計画へ最適化を拡張し 戦略的に顧客生涯価値を最大化



日次計画など短期計画の
サービス提供から開始



週次・月次・年次計画などの
長期計画やその他の種類の計画へ拡大



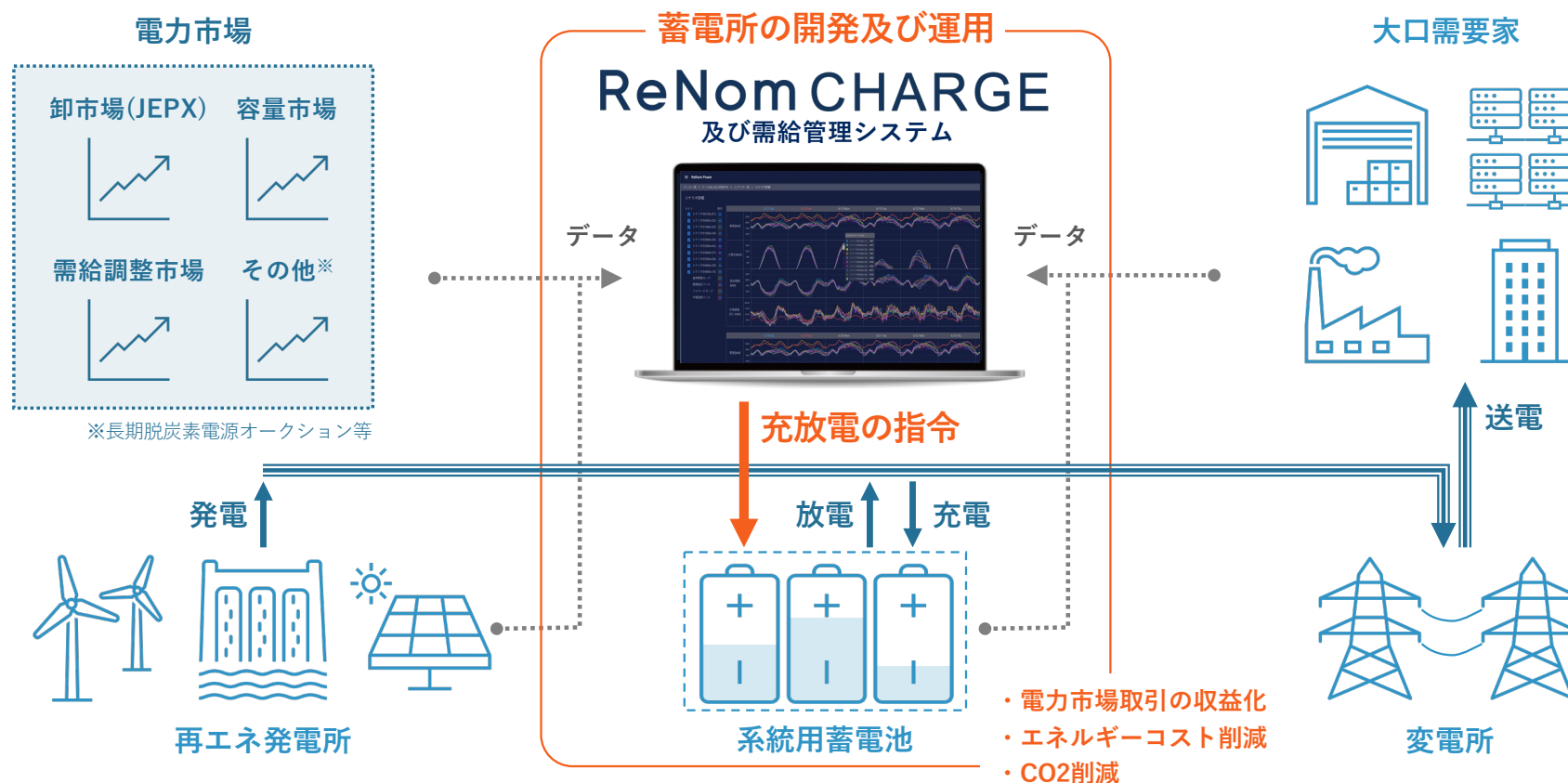
最適化する計画の増加に伴い
ステークホルダーも増加



新たなビジネスチャンスの創出

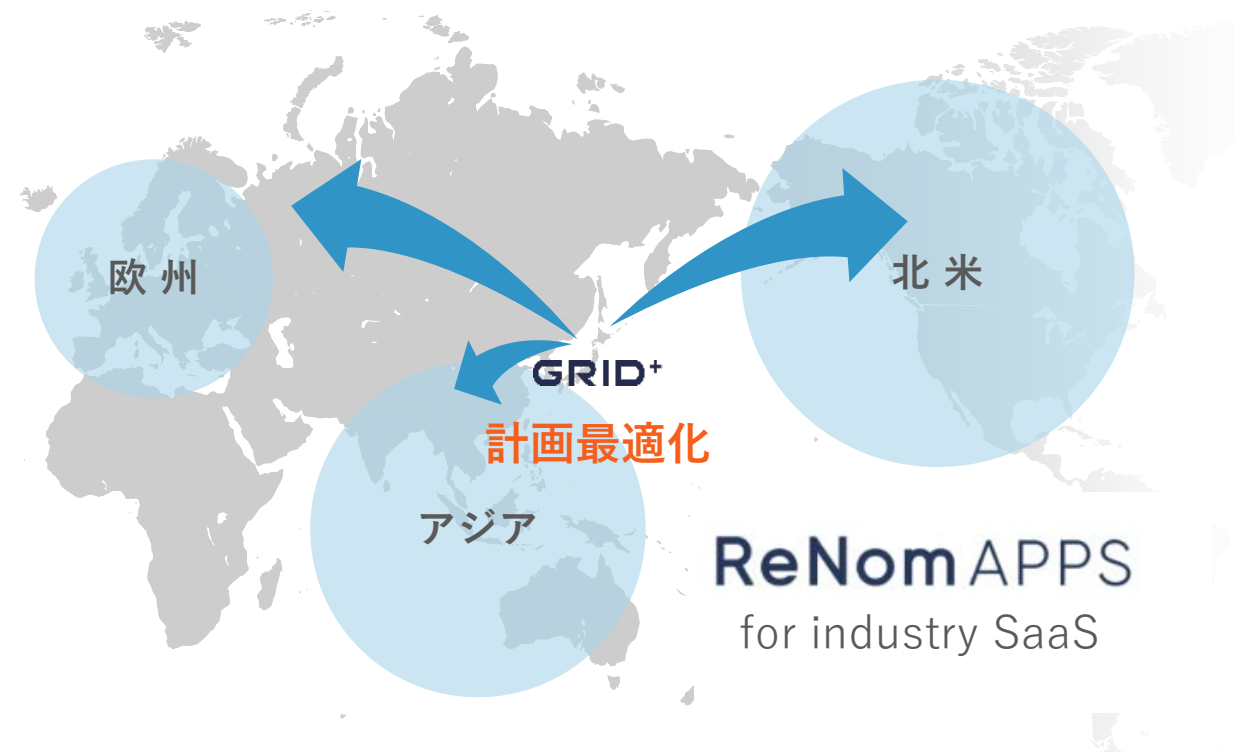
中期成長戦略：蓄電池事業の拡大

系統用蓄電池の充放電の最適化を実現するとともに 蓄電所の開発から運用までのワンストップサービスを提供



長期成長戦略：海外展開

社会インフラの業務オペレーションは**世界共通** 計画最適化の領域は海外においても**ブルーオーシャン**



特定産業向けの**アプリケーション** を強みに海外展開

国内の実績をROI※として明示することで
海外展開への可能性を強化

特定産業向けのアプリケーション
ReNomAPPSにより海外ビジネスにおける
デリバリーリスクの低減を図る

※ ROIとは、return on investmentの略で、投じた費用に対してどれだけの利益を上げられるかを示す指標

実ビジネスの課題解決の発展を目指し 量子アルゴリズムの研究開発を加速

2017~

量子アルゴリズムの研究開発を開始

2018~

量子アルゴリズムに関する論文を発表

2021~

量子アルゴリズムに関する特許を申請

2024~

量子コンピュータ導入に向けた状況

本番運用に向けて
研究開発を加速

2024年度「量子・古典ハイブリッド技術のサイバー・フィジカル開発事業」
採択決定

グリッドの主な研究成果

量子モンテカルロ

量子コンピュータ上で乱数を発生させ、複数回シミュレーションを行ない、解を確率的に推定するアルゴリズムを開発

ハイブリッド量子古典動的計画法

メモリの制限やハードウェアのノイズによる計算能力の制限解消に有効な、古典コンピュータと量子コンピュータのハイブリッド型量子回路を開発

過学習しにくい性質を実証

機械学習の精度向上のボトルネックとなっている「過学習」が、量子機械学習器において過学習しにくいという性質を詳細な数値実験を通して世界で初めて実証

仮想発電所需給調整におけるリスクヘッジ型量子古典確率最適化手法の開発

量子回路でVPPの制御を用いて実現する世界初の研究

- 26/6期3Q決算概況
- 近況報告
- マクロ環境
- 成長戦略
- **事業等説明**

会社概要

会社名	株式会社 グリッド GRID Inc.
代表取締役	曾我部 完
設立	2009年10月
資本金	56百万円（2026年3月31日現在）
事業内容	人工知能を用いたシステムの開発・販売・コンサルティング・保守・運用サポート業務 等
従業員数	133名（2026年3月31日現在）
本社所在地	東京都港区北青山3-6-7 明治安田生命青山パラシオ4F

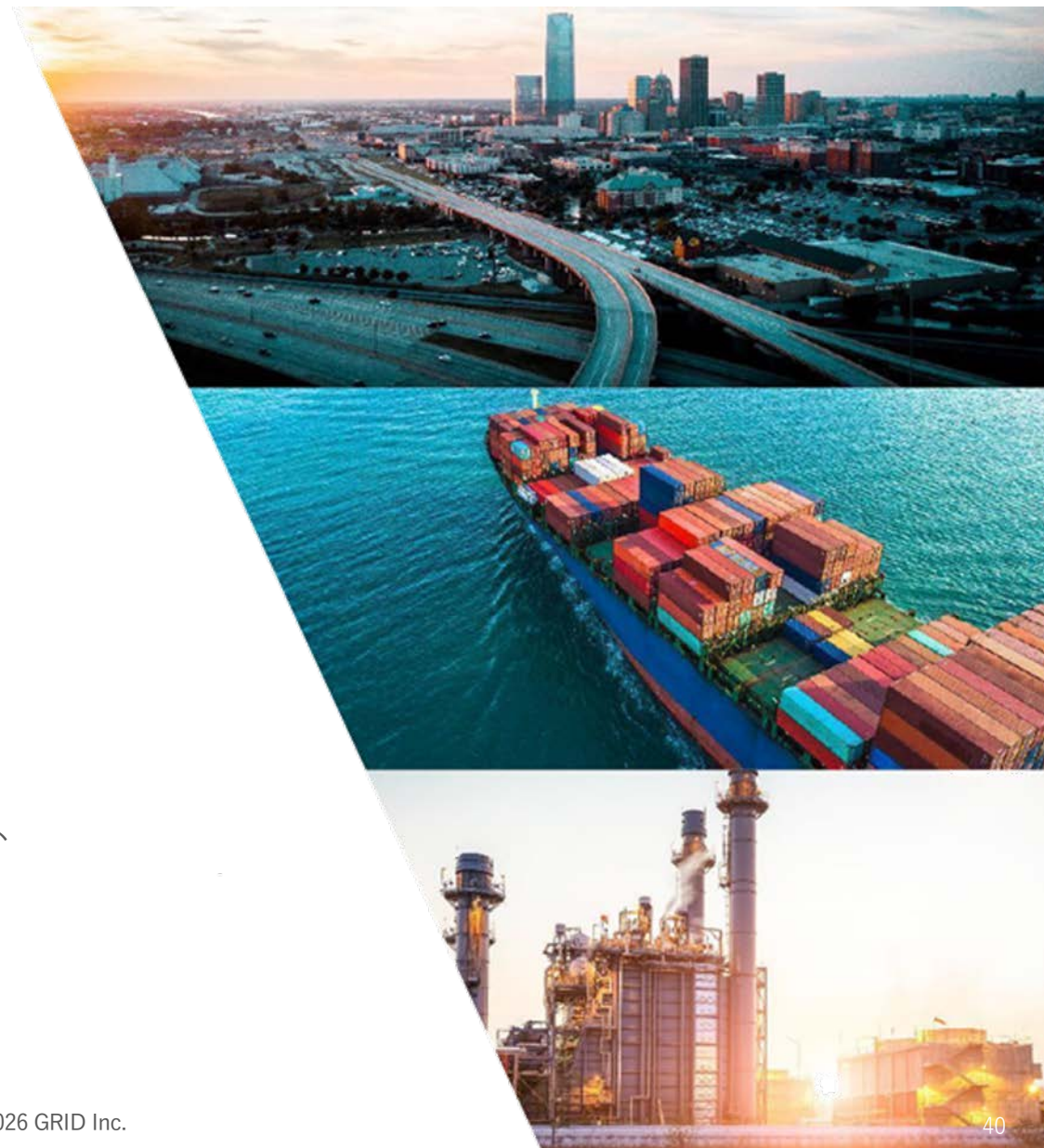


Mission

インフラと社会を、 その先へ

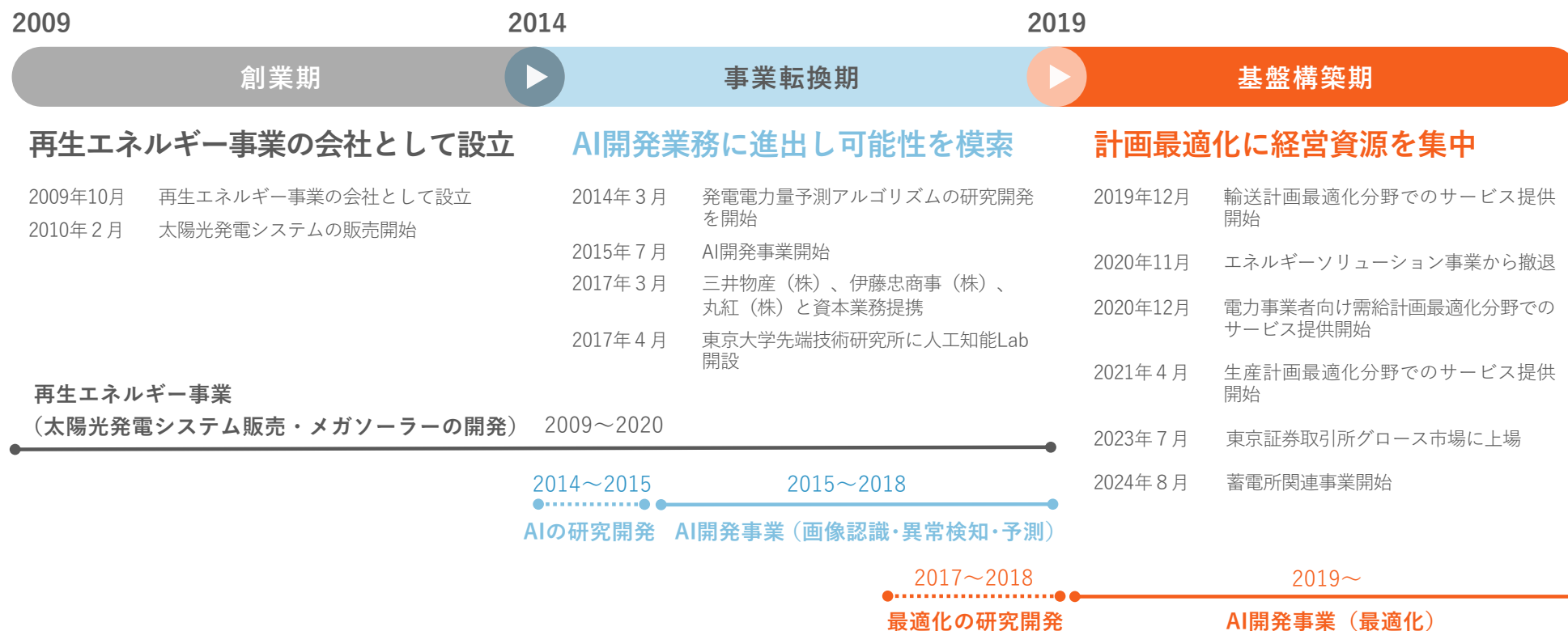
私たちは、アルゴリズムとテクノロジーで
これまでのインフラを再定義し、
未来の社会を支えるインフラを創造します。

グリッドのテクノロジーはインフラを進化させ、
持続可能な社会づくりに貢献します。



沿革

再生エネルギー事業の会社として設立。2014年にAI開発事業に事業を転換し、2019年より計画最適化に経営資源を集中



重点ドメイン

AI × 最適化 を社会インフラの重点ドメインに集中して展開

01
電力

電力需給計画

送配電計画

電力取引

02
製造・運輸

配船計画

生産計画

拠点/輸送計画

03
都市・交通

鉄道運行計画

空港/運航計画

渋滞予測

04
エネルギー管理

蓄電所開発

データセンター

分散電源

社会インフラのオペレーションを最適化するAIエンジンの開発

Before 人による計画業務（例）



熟練人材

組合せ …………… 1シナリオ × 1計画
計画作成時間 …… 数時間～数日間
計画結果 …………… 実績で事後確認

After AIエンジンによる最適化技術（例）



AIエンジン

組合せ …………… 複数シナリオ × 複数計画
計画作成時間 …… 数分
計画結果 …………… シミュレータで事前確認

AIエンジンを搭載した業務システムを提供

顧客の業務システムに当社の業務システムを組み込み、計画最適化を実現

業種ごとのシステム



電力システムアプリ & APIs



配船計画アプリ & APIs



生産計画アプリ & APIs



鉄道計画アプリ & APIs



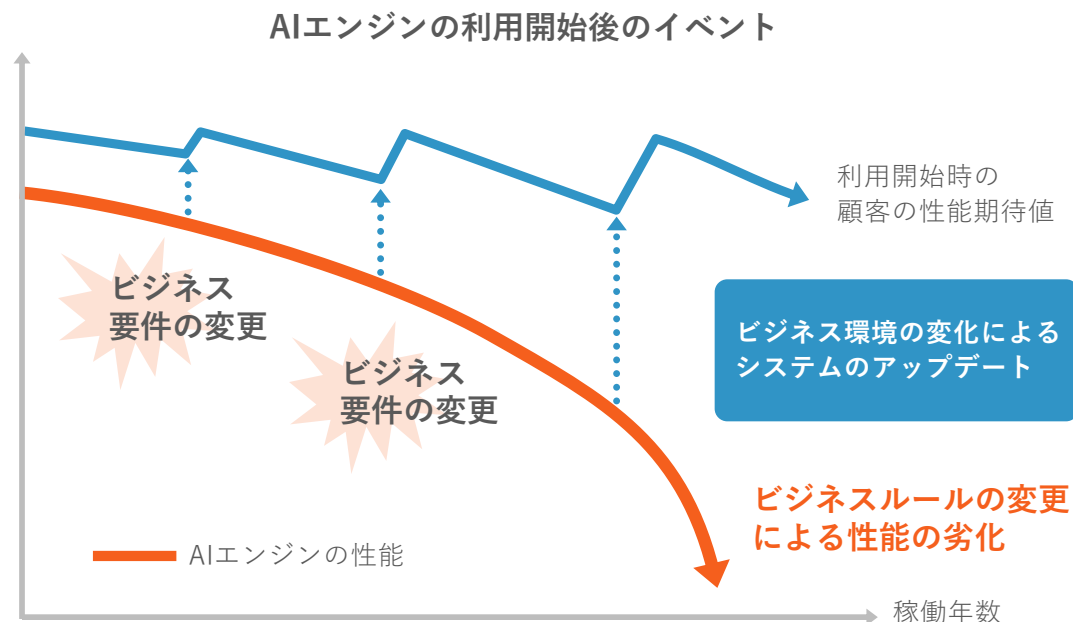
業務システム画面



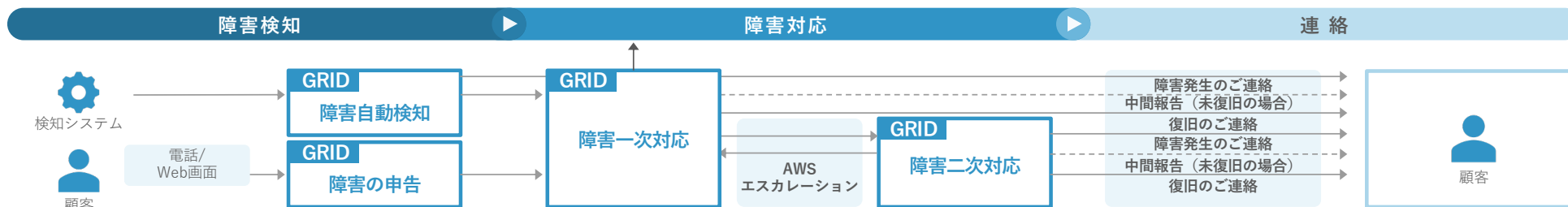
当社が**社会実装**する最適化 ▶ 電力需給計画、送配電計画、配船計画、輸送計画、生産計画、鉄道計画等

AIエンジンの性能維持 障害監視・対応を行う 運用・サポート

顧客のビジネス要件の変化やデータの質の変化により、AIエンジンは性能が劣化する可能性があるため、性能を維持しつつ顧客がシステムを利用し続けられるよう、障害監視・対応を行うとともにAIエンジンのチューニングを行うサービスを年間契約として提供



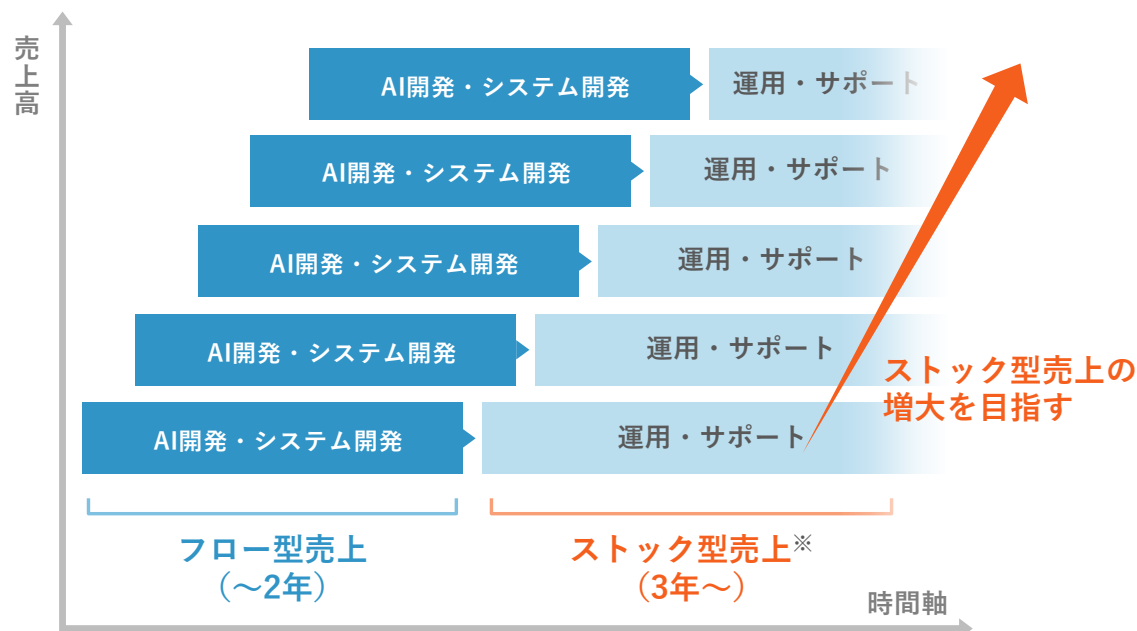
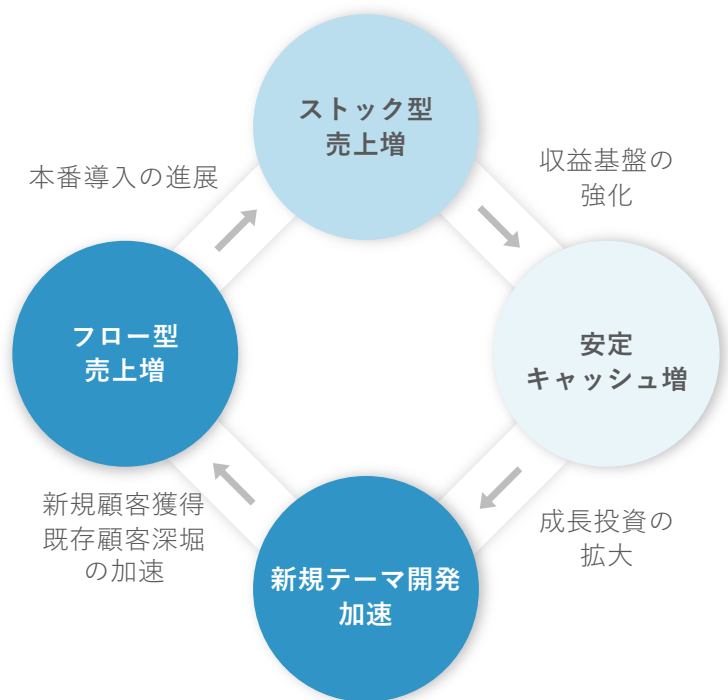
障害対応フロー



収益構造

フロー型売上の積上げにより、ストック型売上进行継続的に拡大

● 当社の収益構造イメージ



※ 契約期間は顧客ごとに異なり、再契約により契約期間延長を行う

25/6期 3Q	1,142 百万円	373 百万円
26/6期 3Q	1,290 百万円*	500 百万円

※ 蓄電所関連の売上を除く

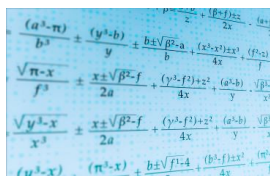
© 2026 GRID Inc.

デジタルツインとAIアルゴリズムの融合による最適化技術

現実世界の**ビジネスルール**や**物理法則**をデジタル空間に再現し
ビッグデータを用いず※、**AIアルゴリズム**で計画を最適化する



ビジネスルール



物理式



AIエンジン



シミュレータ

実行プラン



実行結果



AIアルゴリズム



UI/UX 業務システム

※ AIエンジン内のシミュレータが顧客のビジネス環境を再現してパラメータ値の入力でデータを生成できるため、ビッグデータが不要

ReNomAPPSによる横展開

電力・配船・製造・鉄道をはじめ

特定産業向けにアプリケーションを投入し、横展開を加速

ReNomAPPS
for industry SaaS

POWER

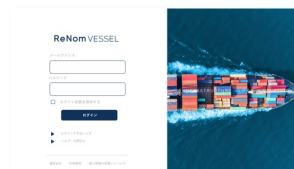
電力



日々変動する需要に対して様々なシナリオを描き、最適な需給計画を自動で立案

VESSEL

配船



日々変動する状況に対して最適な運行計画を自動で立案

SCM

サプライ
チェーン



企業のサプライチェーンを調達から生産、物流、消費までをつなぎ、最適な生産計画、物流計画を立案

RAILWAY

鉄道



車両の運用や構内作業など鉄道輸送に関する様々な計画を自動で立案

社会インフラ出身の エンジニアによる 豊富な業務知識

当社は、業務知識をエンジニアのコア・コンピタンスとし、それにデータサイエンティストやITエンジニアの能力を付加することで他社にはない人材戦略を展開

最適化のエンジニア数は 約70名と国内最大級



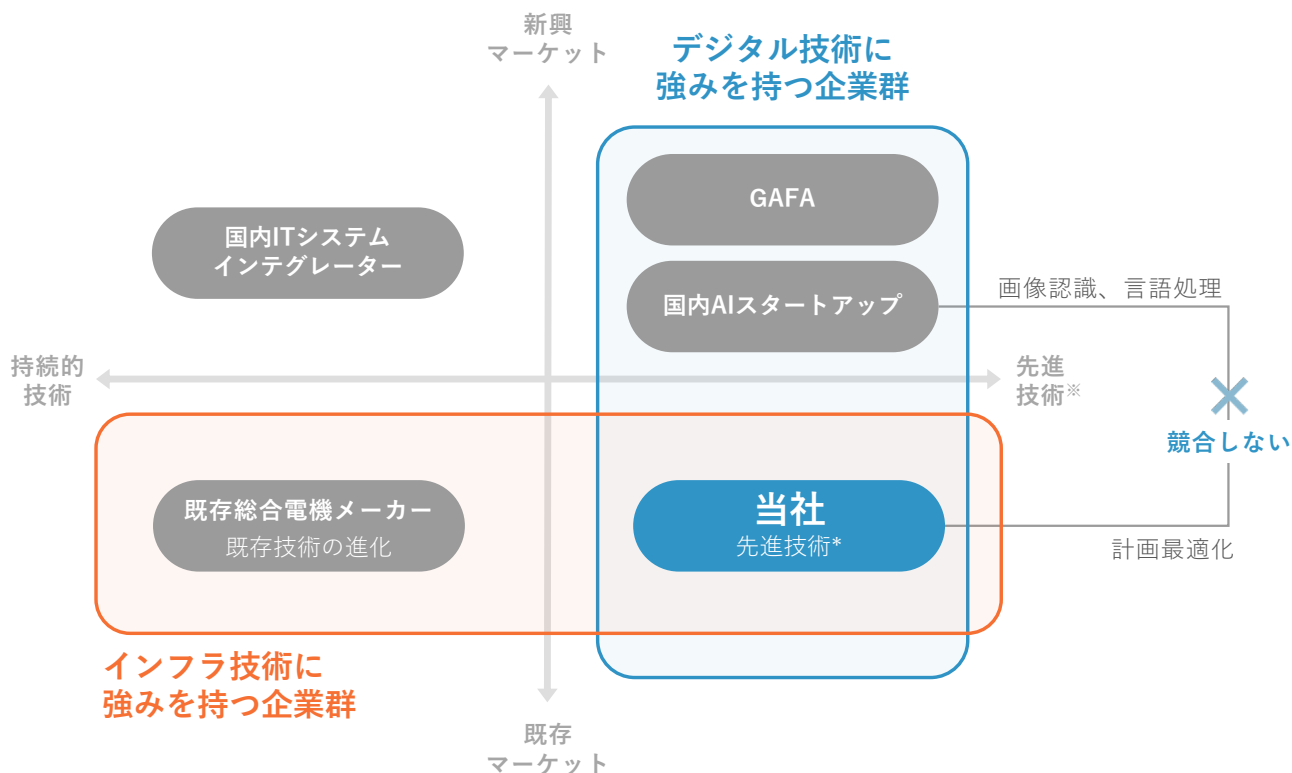
ポジショニング

社会インフラ × 最適化による差別化と集中で 競争が少ない独自のポジションを確立

当社の競争は、AIスタートアップではなく
国内の歴史ある**巨大な総合電機メーカー**

当社独自のソリューションである
数理最適やメタヒューリスティクス※に
最新AI技術を組み合わせたAIアルゴリズムと
製品販売を伴わないサービス提供により
技術面、価格面ともに**優位性**を確保

※ メタヒューリスティクスとは、現実空間において膨大な
組合せが発生する最適化問題を解くための経験的手法
(ヒューリスティクス)を有機的に結合させたアルゴリズム



※ AIを使った技術であり、既存技術と比較して高い優位性のある技術

© 2026 GRID Inc.

免責事項

本資料の取扱いについて

本資料に含まれる将来予想に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。これらは、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大きく異なる場合があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれていますが、これらに限られるものではありません。